

2024年度 卒業生答辞 宮坂 優人

雪が降り、厳しい寒さが残る中、ふとした瞬間に感じる暖かく柔らかな風が、私たちに新しい生活への希望と期待を届けてくれる季節となりました。

私たち卒業生一同は、本日この日を持ちまして、神奈川大学を卒業します。本日、このような厳粛で素晴らしい卒業式を挙げていただきましたこと心より感謝申し上げます。

また、ご多忙の中ご臨席くださいました小熊誠学長をはじめとする教員、ご来賓、ご家族の皆様には、卒業生一同深く御礼申し上げます。

卒業生の多くが神奈川大学に入学したのは、4年前の2021年4月。当時は、新型コロナウイルス感染症の脅威が残る中、少しずつ社会がこの脅威との共生という道を模索し始めた時期だったと思います。

そのため、入学したばかりの私たちの心には、不安と希望の二つがあったのではないのでしょうか。

振り返れば、私が法学を選び、法曹を目指す決意を固めたのは、生活環境、社会環境といった自分ではどうしてもできない事柄で窮した友人を助けたかったという思いからです。

私はこのような思いのもと法学を専攻するため通信制大学に入学しました。しかし、通信制ゆえに法学の理解が深まらないという困難に直面します。この経験を通じて、学びを深めるために、質問できる教員の存在、学友と刺激し合える環境が不可欠だと痛感しました。そのため、2年前の2023年4月、私は編入学制度によって本学3年次に編入学いたしました。この新しい環境における学びへの挑戦は、大きな不安とともに希望に満ちていたことを今でも鮮明に覚えています。

3年次、対面授業が原則となり、実際に教員や学友と直接顔を合わせて学べる機会ができました。教室というリアルな空間がもたらす充実感は、私たちを真の意味での大学生として成長させました。そして、学生が慣れたオンライン環境から対面授業に移行する際に、混乱や不安が生じないように、十分な配慮をしていただけたこと大変感謝しております。

大学生活を振り返ってみると、私にとって人とのつながりが大きな意味を持っていたと

感じます。

私自身、法科大学院入試の合格という目標のもと法学の勉学に邁進してきました。中でも横浜キャンパス 24 号館の自習室における学友たちとの時間は私にとってかけがえのない財産です。それぞれ目標は違えど、自習室が閉まるまで学友と法学に関する問題意識を共有し、疑問点について議論を深め、お互いが競い励まし合ったことは、法学という共通の学びを通じた青春であったと思います。この青春は、単なる知識の習得にとどまらず、人と学ぶ楽しさと、それがもたらす充実感を学ぶものであり、大学生活を豊かにしてくれたものだとは心から感じています。

4 月から、私たちはそれぞれの道を歩んでいくことになります。新しいことに挑戦する者、社会人となる者、さらなる学問の探求を志す者、それぞれ進む道は異なろうとも、神奈川大学での学びによって得られた力を活かし、今後はそれぞれの道で社会に貢献して参ります。

最後になりますが、特に大学に行くという大きな決断をサポートしてくれた両親には心から感謝の気持ちを捧げます。また編入学後 2 年間でお世話になった多くの方々、特に、進路選択の相談、答案添削、法学に関する疑問点の解消、“判例との付き合い方”を教えてくださいましたゼミナールの遠藤史啓先生や編入学当初の 3 年次、右も左も分からない中、ゼミナールの最初の講義で「こっちにおいてよ」と声をかけてくれた学友に深く感謝の意を表したいと思います。

私と同様に、この会場にいる卒業生には、感謝の思いを伝えたい方が多くいらっしゃると思います。卒業生を代表し、この貴重な場をお借りして、心よりお礼申し上げます。4 年間にわたり、私たちをあたたく時に厳しく見守り支えてくださったすべての方々に心より感謝いたします。

皆様のご健康と神奈川大学の益々の発展をお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

2025 年 3 月 21 日

卒業生代表

法学部 法律学科 宮坂優人